

第1回勝山市立中学校再編準備委員会 議事録

(1)日 時：令和8年4月28日（火）午後7時より（勝山市教育会館 第1研修室）

(2)参加者：準備委員20名（2名欠席）、事務局11名、報道1名、傍聴1名

(3)内 容

1. 開会・委員委嘱
2. 委員長・部会長のあいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 今年度の取組みについて

専門部会について

- ①総務部会
- ②学校運営部会
- ③PTA部会
- ④施設整備部会

5. その他

- ・勝山市中高一貫教育推進協議会について

《開会・委員委嘱・委員長・部会長の選出》

- ・委嘱書は机上に配布
- ・設置条例に従い委員長を互選
- ・準備委員会委員長に木下克則氏（県立勝山高等学校 同窓会名誉顧問）、
- ・総務部会長とPTA部会長に木下克則氏

学校運営部会長に松原正恭氏（福井工業大学附属福井中学校教諭）

施設整備部会長に西本雅人氏（福井大学学術研究院工学系部門准教授）

を選任

《委員長・部会長あいさつ》

委員長 ・皆さんこんばんは。お疲れのところ会議に参加いただきありがとうございます。事務局から説明いただいたように、昨年度途中から委員長を務めさせていただいている。今年度も継続して委員長を受けさせていただくこととなったので、どうぞよろしくお願ひしたい。さて、当準備委員会は、2022年にスタートし、今年が最終年となる。4年が経過した現在だが、新勝山

中学校建設現場では、徐々に校舎の全景が見え始めてきた。また、昨年から市内3中学校では新しい制服、体操服を着用した新入生を見かけるようになり、いよいよ新中学校開校への気運が高まってきているように感じている。本日は今年度最初の準備委員会であり、また初めての委員の方々も多数おられるので、これまで協議してきた内容の報告が主になるかと思うが、是非不明な点があったら質問いただき、意見なども伺いたいと思うので、よろしく願いしたい。それでは今年一年、新中学校開校に向け、どうぞよろしく願いしたい。

(拍手)

部会長 ・皆さんこんばんは。私は先ほどの紹介のとおり、中高連携で一貫教育をしている学校に最初から携わってきた。何かお役に立てるといいかなと思っている。精一杯務めさせていただくので、どうかよろしく願いしたい。

(拍手)

事務局 ・ありがとうございました。では、最初に教育長がご挨拶申し上げます。

《教育長あいさつ》

教育長 ・皆様こんばんは。本日は令和8年度の勝山市立中学校再編準備委員会に出席いただきありがとうございます。また、大変お忙しい中、この委員をお受けいただいたことに改めて感謝を申し上げたい。先ほど委員長の説明もあったが、この再編準備委員会は令和4年度にスタートして、準備委員会なので今年度が最終年度という形になる。ずっといろんなことを協議してこれまで決めていただいたが、今年度は次年度に持ち越すということとはできないので、いろんなことをまた皆様にご協議いただきながら決定していただく。そういう1年になろうかと思うので、ご理解とご協力をお願いしたい。今日は最初であるし、PTAの皆様方は初めてこの委員会に入ったということもあるかと思うので、これまでの準備の振り返りというか、進捗状況などをまず私の方から簡単に説明をさせていただく。本日の資料にはそれぞれの詳細の資料が付いていて、後ほどまた改めて担当の方から説明をさせていただく。概要をつかんでいただくということで、しばらくパワーポイントを使って話をさせていただきたい。それから、この委員会と各専門部会という部会が4つあるが、この委員会は公開で行う。オープンの会ということなので、オブザーバーの方とか報道機関の方が入ってくるような形になる。それから各専門部会は非公開とさせていただいている。なぜかと言うと、部会の議論を遠慮なくいろんなことを意見をいただきたいということで、部会自体は非公開とさせていただいている。委員会も部会も議事録については、後ほど終わった後に市のホームページにアップするというになっている。アップする際には、発言の名前は伏せて、委員1、委員2というような形でアップさせていただきたいと思うので、その点ご了承いただきたい。よろしく願いしたい。

(パワーポイント説明)

- ・前の方のスライドを説明するが、お手元にこれを印刷した資料もあるかと思う。同じ内容なので、いずれかご覧いただきながら聞いていただければありがたい。まず右上のこれは新しい勝山中学校の校章である。勝山高校の生徒がデザインしたものが採用されている。少し薄いのが、最初のスライドは勝山市の1年間に生まれた子どもの数の推移を示していて、ちょうど今中高生あたりの子供達は、その時には200人弱ぐらいの出生数の子供達だったが、このように右肩下がりになって、昨年度（令和7年度）は86人の出生数となった。実は令和5年度に初めて100人を切って86人、で次の6年度が76人、で昨年度86人ということで、100人には戻ってないが、このような実態で推移をしているということである。それから、これは勝山の中学校の生徒の数ということで、下から北部、中部、南部ということだが、合計が昭和49年あたりは1,609人と一番多かった時期だが、今年度（令和8年度）は461人というように減少している。いわゆる少子化が進んでいるという状況を示したものになる。子どもの数が減ってくると、当然、学校はきめ細かい丁寧な教育ができる、一人一人の顔がわかる教育ができるというメリットがあるが、特に中学校段階というのは大人へ成長していく過程の中で社会性とか人間性を身につけていく大事な3年間である。学年規模が小さくなった時に、ここに書いてあるような課題も出てくる。やはり多様な生徒がいる一定集団の中で、切磋琢磨しながらいろんな学習活動に取り組む、それを中学生に提供していくことが必要だ。そういうような観点から中学校の再編を進めてきたとご理解いただければと思う。それで令和4年3月31日（令和3年度末）に、まず勝山市立中学校再編計画を策定した。これの内容は、3つの中学校を1校にすることと、その中学校を勝山高校の敷地内に建設して、高校生と中学生の中高連携の教育を進める。ちょっと難しい言い方だが、連携型中高一貫教育を導入することが盛り込まれている。それから、その1年後に今度は勝山市立中学校建設基本計画で、これは具体的な新しい中学校の学校像とか生徒像、そしてそれを実現するための校舎建設の基本構想とか基本計画、こういうことを策定したものであって、今この2つの計画に基づいて校舎の設計をし、準備を進めているということである。この開校準備に関わる組織としては、まず今言った令和4年度設置の、勝山市立中学校再編準備委員会、この会になる。この委員会には学識経験者、保護者、関係団体、それから中学校高校の管理職の先生方などで構成をしていて、部会としては総務部会、学校運営部会、PTA部会、施設整備部会と4つの部会に分かれて、それぞれの協議事項を検討していく形になっている。それからもう一つ、令和6年度に設置をしたのが、勝山市中高一貫教育推進協議会で、中学校高校の管理職と教員、それから県教育委員会、市教育委員会といわゆる学校関係者で組織をしているもので、この中で具体的に学校の教育内容とか、そういったことを決めていく。再編準備委員会については今年度限りの委員会となるが、この中高一貫教育推進協議会というのは来年度中学校が開校した後も、今度はここでいろんなことをさらに決めていくという形になっている。

- ・県内で中高一貫教育、勝山と同じ連携型というタイプを実施しているのが、部会長から話があったが、あわら地域のあわら中学校と金津中学校と金津高校というところ。また越前町の中学校と丹生高校。それからもう一つは嶺南に行って美浜町と若狭町の中学校と三方高校。3つの地域がすでに連携型の中高一貫教育をしている。勝山市は4番目になると理解していただければと思う。もう一つ福井県には連携型ではなくて、併設型というタイプの中高一貫教育校があって、これは高志中学校、高志高校のタイプになる。教育を行う上でのいろんな特例とかそういうものも違うので、連携型としては勝山市4番目にスタートとご理解いただければと思う。その3つの地域それぞれこうした協議会を持っていて、学校教育の充実に頑張っているということである。
- ・改めて新中学校が目指す教育ということで、基本計画にも掲げてあるが、考え方として、中学校の校舎を勝高の敷地内に作る。さらに勝高の周辺にはジオアリーナ、長山公園グラウンドという勝山市の施設があって、こういうものも教育にも活用し、そして中学生高校生と一緒に使うという環境を作って、共に学び交流する新たな文教ゾーンを整備する。共に学び交流するということで連携型の中高一貫教育を導入する。そういうフレームで再編を進めてきている。それから、新しい中学校の目指す学校像。これは4つ掲げているが、それぞれまた時間のある時に見ていただければと思う。「支援する学校」と最後に括弧が付いているが、支援という言葉が赤字になっているのは、これは今の教育というのは、子ども達を先生が指導するという、いわゆる上から見たようなところがあるが、そうではなくて子ども達が伸びていくのを支援するのが学校の役割である。指導から支援への転換ということも進めていて、そういう意味で新しい中学校もこうしたことを支援していくということを大事にしてやっていこうと考えているものである。もう一つは、こんな生徒に育ててほしいという目指す生徒像になる。これもそれぞれを英語の単語を使って、一番上がチャレンジ、2番目がコラボレーション、3番目がコミュニケーション、4番目がキャリアということで、4つのCという形で目指す生徒像を設定をしている。この後各部会の協議だとか、この全体会の再編準備委員会でも、協議をするにあたってはこういった目指す学校像とか目指す生徒像、これがしっかりと実現できるのか、そこを目指しているのかということのを頭の隅に置きながら、いろんな意見をいただければありがたいと思っている。
- ・少し具体的なイメージの図だが、勝山高校を俯瞰している図になる。ちょうどグラウンドの一番校舎寄り北側に、勝山中学校の校舎を建設している。こういうイメージになって、隣のジオアリーナの裏側にあたるが、ここにスクールバスの乗降所を作る。ここから学校を結ぶのに地下横断歩道を今工事をしているところ。こういうものの具体的な図はさらに資料等で説明したいと思う。それから、上から見た図で、このオレンジ色で表した部分が中学校の校舎だが、こちら側は勝山高校の校舎になる。この中高の施設については、県教育委員会といろいろ相談をして、共用するという形になっている。ちょうどこの中学校の校舎のすぐ隣にあるこの校舎、これは勝

山高校の特別教室棟と言って、音楽室とか美術室とか理科室とかそういった実習室、実験室などが集まっている校舎。普通学級はもう一つこちら側の校舎にある。1年1組から3年4組までという形である。ここが主に実習実験をするところだが、ここを今、道を通っていただくと分かるが、中学校の校舎建設と同時に、ここにもカバーがかかっている、リノベーションを行なっている。リノベーションが終わると、音楽室とか美術室、家庭科の被服室とか調理室、これは中高が共用する部屋として整備をしているし、中学校の理科室、それから中学校にしかない技術という科目の技術室、この2つは勝高の特別教室棟の中なのだが、中学校が主に専用として使う部屋として県の方で整備をしていただいている。それから新しく、吹奏楽の練習室というもの。これは中高が使うが、これも特別教室棟に整備をして、吹奏楽部の練習に役立てる。これはあまり他の学校にはない独特な部屋かなということ、吹奏楽の子ども達は楽しみにしているところかと思っている。それ以外に、第1体育館とか第2体育館、武道場、こうした物も中学校も共用して使わせていただく。代わりに、先ほど言ったようなジオアリーナや長山も勝高の生徒も使えるように考えている。当然、中学校の校舎の中も後で言うが、高校生にも使っていただくような部屋も設けていて、中高連携なので、日頃から高校生と接しながら、高校生の姿を見たり教えてもらったりというようなことを効果的に進めていきたいと思っている。中学校の校舎の中も特徴的な場所として4つ、まず図書室だが、これは勝山高校にも図書室がある。先ほどのリノベーションということで勝高の図書室は無くして、中高合わせて中学校の校舎に1か所設けることにしている。これは校舎の2階の真ん中に大きな教室3つか4つ分ぐらいの大きな図書室を整備をしていて、ここには中学校の蔵書と高校の蔵書と合わせて3万冊ぐらいになるが、それを中高の別なくどんな本もそれぞれが読める。中高生が3万冊の本を読めるというような環境を作ることになっている。それから、中学校、高校の玄関を入ったところに、大階段を2ヶ所設けていて、この大階段というのは授業をしたり、小さな講演会をしたり、それから生徒会の行事とか、あるいは部活動のちょっとした発表みたいな、多角的に使える場所として整備する。福井駅にあるようなものと同じイメージをしていただければと思う。それから調べ学習室ということで、今中高探究的な学習ということは力を入れているので、それ以外に教科の勉強も含めて、グループで学習したり、いろんなディスカッションしたりとか、あるいは個人学習スペース、一人で自習できるような場所も作って、子ども達が教室以外でも自分で主体的に勉強できるような、そういう環境も作っている。それから多目的室。ちょっと天井の高い大きなホールで、これはたくさん人が入って講演会をするとか学年集会をするとか、あるいは天井が高いので少し軽い運動もしたり、例えば卓球部の練習に使えるとか、そういったような多目的な利用ができるようなスペースとして整備をしている。それから地下横断歩道、ジオアリーナと学校を結ぶもので、今工事をしているところだが、約5.5メートルの幅ということで、かなり広くなると思う。そしてこの地下横断歩道の中は、外履きレーンと内履きレーン、真ん中で別に柵を作るわけではないが、仕切りができるようにして、内履

きのままで歩ける場所、それから外履きで歩ける場所ということで、通学の時にはスクールバスをジオ側で降りて、外履きのままで学校へ直接入ってくるし、あるいは学校の方からジオアリーナの方へ授業とか活動をしに行く時には、内ズックのままで行けるといような工夫もしている。それから両方、ジオ側と学校側の出入り口のところがオートロックの自動ドアを設置して、セキュリティ対策ということではしているし、中には複数の防犯カメラを設置することも進めているところである。この図はイメージ図だが、広いところでプロジェクターでいろんな映像を映す、いろんなサインを出すといようなことも考えているし、なるべく明るい、ただの廊下ではなくていろんな情報も提供できるような空間にもしたいと考えている。それから、これと次のこの2枚は、今日の資料の後ろの方に付けさせていただいた再編準備委員会だよりで、「ボリューム2」こちらの方は、校舎の他の部分1階、2階、3階がこんなふうになっているとか、今4つ紹介した以外にもこうした特徴的な場所があるといようなことを説明をしているので、少し前は見にくいと思うので、これはまた時間のある時に見ていただければと思う。こちらも準備委員会だよりを用意してあって、先ほどの勝山高校の特別教室棟の共用といようなところの説明がしてある。それから特別教室棟だけではなくて、県の方では第1体育館もリノベーションをしまして、終わっているが、この第1体育館は写真にあるように本当に新築した体育館のような形になっているし、今後エアコンも付けていただくといことを県の方で準備をしていただいているところである。

- ・学習内容に入る。中高連携を活かした教育内容といことで、1つは、高校の先生が中学校3年生の数学と英語の授業にサポートに入る、いわゆるティームティーチングとい形で、週1時間と考えているが、これは全3年生が恩恵を受けられるとい形で、クラスを解いて少人数に分けてきめの細かい授業をしていくことを考えている。なぜ数学と英語かといと、どうしてもこの2つの教科は、力の差が付きやすい、苦手意識が出やすい、そういった教科なので、少人数にして丁寧に教えていくことをしていこうと思っている。それから探究的な学習。勝山高校は今探究特進科とい学科があって、そこで探究的な学習に力を入れて、それが大学の進学にも繋がっているといような成果を上げているが、中学校においても高校生の探究に触れ学ぶことで、中学生も探究スキルを上げるとか、それを通して学力を向上させるといったことを狙ってやろうと思っている。それからライフデザインタイムといのは、キャリア教育を勝山ではライフデザインタイムとい言い方をしているが、中学校段階で1年生、2年生も含めて、早い段階からいろんな職業を知る機会、外部の人を授業にたくさん入れて、視野を広げてもらうといこと。高校の先生から大学進学などを見据えたいろんな学びの指導をしていただくとか、そういったことで進路意識、学ぶ意欲を向上させていきたいと思っている。それから学校行事とか特別活動、部活動などは、できるだけ生徒主体で活動が進められるようにして、子どもの社会性、コミュニケーション能力といものも育てていきたいと思っている。こうしたことは先ほど言った中高一貫教育推進協議会の方で

学校の先生方と中身をどうするかということを検討を進めている状況である。それから、連携型中高一貫教育はどんなものかということ簡単に言うと、市町立中学校と県立高校の間で福井県の場合は連携教育を実施しているというようなもので、先ほど言った3地域がこれになる。連携型というのは、中学校と高校の授業とか教育活動は基本的には独立をして、別々の学校であるということで、カリキュラムも独自にやるが、その中でも教育効果が高いと思う教育活動については中高の連携を進める。そういったスタンスで、中高一貫教育の中では一番緩いタイプだと思っていただければと思う。そして当然だが、中学校を卒業した後の進路選択は自由で、高校へ行きたい子も勝山高校を含め県内、県外でもいろんな高校は自由に選べるというのが保証されている。ただ、勝高とは中高連携という教育を進めるので、勝山高校を目指す生徒については、今のところは学力検査があるが、それを免除して中学校3年間の学びを評価するようなパフォーマンステスト、面接とかそういったところで評価をするという、それを簡便な入試という言い方をするが、そういった選抜を導入する予定で話を進めている。

- これは新中学校の制服になる。胸のところのエムブレムは、これも中学生のデザインを採用している。この制服の特徴は、ジェンダーレスということで、ズボン、スカート、性別を問わず何を選んでもいいということで設定をしている。それから体操服は、胸にブランドのマークがあるこういった体操服を今1、2年生が着ているが、ロゴマークはこういったもの。そして夏の体操服は半袖だが、日光に当たると皮膚が弱いとか冷房で寒いという子には、夏用の長袖シャツも希望者が買えるようにということで準備をしている。それから内履き、外履き。これは通学用のカバンになる。こういったものの他にも学校用品がいろいろあるが、できるだけ学校指定にしないで自分たちで自由に考えて購入をするということをお願いしようということで、通学のカバンについてはこのぐらいのものを推奨しますという見本を示して、同機能のものであればどこで購入してもいいというような形にしているし、ズックも紐の色とかこの横のマークの色を変えて学年がわかるようにしている学校もあるが、そういうのもやめようということで全部同じ形にしている。
- スクールバスについてだが、通学方法は市街地に学校が一つということになるので、それ以外の遠いところから通う人がいる。考え方としては、学校から1.5km未滿の人は歩いてきてください、それより遠い人は、原則としてスクールバスに乗ってくださいというお願いをしているところである。特に最近では保護者の方が学校へ送迎するというのもあって、クマのこととか心配なこともあって送迎されるが、今度は1校になるので送迎の車も朝夕ものすごく集中して逆に危なくなる。それから距離を長く運転していただかなといけないということもあって、通学の安全確保とか保護者の皆様の負担軽減という観点から、バスに乗ってくださいとお願いをしているところである。送迎についても、直接学校に車が入ってくると危ないので、ジオアリーナの駐車場に入ってきて、お子さんを降ろしてい

ただ、乗せていただくというようにしたいと思う。もちろん、緊急時は直接学校に入らせていただくのは構わないが、こういうことを一応ルールとしてお願いした上で、スクールバスについては市内一円から12路線のルートを作っている。今現在も定時定路線のバスが走っているが、これは10路線になる。それに2路線加えて、スクールバスは12路線で運行する。中学生だけではなくて、市民の方、高校生も乗っていいという形にする。料金は無料である。当然、市民、高校生、中学生以外の方も無料である。そういう形で運行をする。朝は通学として一便、だいたい7時55分から8時10分にジオアリーナに到着をして教室に行く。それから夕方は部活動がない子とある子があるので、二便運行して、一便目は授業が終わった後16時40分から55分ぐらい、それから二便目が部活が終わった後の17時50分から18時5分ぐらいで今ダイヤを組んでいる。時間が15分ほど幅があるのは、12路線でバスが12台走るので、12台一斉に同じ時間に走るというのは難しいので、3つに分けて時間をずらして発着をするということを考えている。それからどの路線も、一番長く乗っている子でも30分ぐらいに抑えたいというようなことも考えている。そういった形で2路線増やしたという経緯がある。ジオアリーナの道路側のところに、雨、雪が当たらないようなバスの乗降所を作って、ここからバスを降りるとすぐに地下横断歩道の入り口に入れるというような環境にしたいと考えている。それから、中学校はずっとデリバリー式の給食で、小学校のような自校式ではなかったが、新中学校からは自校式の給食を始める。1階の校舎の一番ジオアリーナ寄りのところに給食室を造って、食材は学校で発注して、調理員さんが学校で調理をする。小学校と同じやり方で給食を作る。ただ、調理員さんについては業者委託を今考えているところである。ご飯についても中学校は給食室でご飯を炊く。お米は生産者の顔が見える勝山のお米、これは小学校と同じだが、それを提供するし、アレルギー対応への配慮とか地場産の食材を使うとかいうことも、小学校と同じようにしっかりと対応をしていきたいと考えている。以上である。QRコードを開いていただくと、勝山市のホームページの方にも飛べるので、また時間のある時に、覗いていただいて、いろんな情報を見ていただければありがたいかなと思う。この後は、また資料を使って、もう少しそれぞれ詳しく説明をさせていただきたいと思うので、どうぞよろしくお願ひしたい。私からは以上になる。

事務局 ・ありがとうございました。部会長が来られたので、ここでご挨拶をいただければと思う。よろしくお願ひしたい。

部会長 ・皆様初めての方もおられると思いますが、どうぞよろしくお願ひしたい。今回は授業を6時までやっていたので、遅れて申し訳ない。今年度には校舎を作って、ちょうど今工事を進めているが、やはりどれだけ図面を見てもパーツを見ても、実体験に勝るものはないと思う。実際に現場に見学に行ったら「こんなふうになっていたんだ。」「ここ結構狭いね。」とか「ここは結構広いね。」というところはあると思う。よくそういうことは言われることがあるが、できるだけ現場を見学できる機会があったら、早めに見学していただけるといいかなと思うし、その時に少しでも気になった声を

どんどん上げていっていただきたい。最後だとあまり変更はしにくいですが、例えばもう少し家具の位置を変えたいとか、そういう細かいところだと変更も多分できる要素はあると思うので、少しでも完成の最後まで、できるだけ皆様と一緒に頑張っていきたいと思うので、どうぞよろしくお願いしたい。

(拍手)

事務局 ・ありがとうございました。それでは、この後の進行を委員長にお願いする。

《今年度の取組みについて》

(専門部会について)

委員長 ・それでは、レジュメに沿って進めさせていただきたいと思う。ただ今の教育長の説明について、前半の方は今度新しくできる中学校をどのような中学校にしようか、その中で生徒をどのように教育していこうかという、基本理念的な話があったかと思う。実は私たちこの4年間、この基本理念に沿って各専門部会の方で部会独自にいろいろ検討を進めてきた。その検討した結果を、後半の部分の方で、現在決まっているところまでの内容についての説明をいただいたという流れになっていたかと思う。最後の方で説明もあったが、基本理念的なところについては、勝山市のホームページの方をご覧くださいと、新中学校の開校に向けてということで非常に細かく掲載されているので、時間のある時にぜひ一度目を通していただければなと思うので、よろしくお願いしたい。この後レジュメに沿っていくと、5番目、今年度の取組みということ。その前にこれから総務部会、学校運営部会と順次各部会の今年度計画している内容についての説明があろうかと思う。レジュメの2ページ目のところで、各皆様が所属する専門部会というのが全部表になって、記載されていると思う。それぞれ自分がどの部会に属しているかということをもとに入れていただいて、これから全ての部会の説明をさせていただくが、当然全体の説明をお聞きいただく必要があるが、特に自分が所属している部会の内容については、注意してお聞きいただければと思うので、よろしくお願いしたい。各部会、全部で4つあるが、この後一括して各部会の説明を通しでさせていただく。それを終わった後に、いろいろ質問等をお受けしたいと思うので、よろしくお願いしたい。それでは、事務局の方、よろしくお願いする。

①総務部会

事務局 ・それでは私の方から順次説明をさせていただく。今ほど委員長から丁寧に説明いただいたので、繰り返しになる部分があるがご容赦いただきたい。まず資料1ページ目であるが、それぞれの委員の皆様方の所属が書いてある。これと対応して資料4、5ページを確認いただきたい。こちらがそれぞれの部会の役割ということで、ゴシックになっている部分については、令和7年度から協議を継続している事項である。斜めになっているゴシックについては、令和8年度中に協議したい内容であるということで、それ

ぞれ所属されている部会の、斜めになったゴシックの文字の部分、これが今年度、協議をお願いしたい内容だということでも理解いただければと思う。ただしあくまでも案なので、今後協議を進めていく中で、追加修正がある場合もあるかと思う。新たな事項が生じた場合については、その都度相談して検討をしていきたいと思う。全体については以上である。

事務局 ・私の方からは、最初に総務部会と学校運営部会を説明させていただく。資料5-1、6ページをご覧ください。一昨年からの校章の選定にあたり、かなり慎重な協議を続けてきた。お陰様で、このような形で最終案ということで、最初オリジナルデザインをいただいたが、委員会の修正を経て修正後の最終デザインという形にしてある。ここまでは決定をいただいたが、最後のものとして、モノクロの提案をいただいた、これを校旗にする場合にその背景色とか、どのような仕立てで校旗にするかという協議が残っている。今年度この校旗については、このあたりのところを検討いただきたいと思いますと考えている。次に資料5-2、7ページをご覧ください。これは校歌の作成の進捗状況ということである。校歌については作詞は地元平泉寺にお住まいの大庭 桂様。作曲については、大庭 桂さんとの共作が多い姫神様に依頼して現在制作をお願いしているところである。今年度は校歌の完成に向けて努力をするとともに、その披露の仕方についても検討いただきたいと思いますと考えている。併せて学校の柱となる校訓等についても、昨年度末に一度協議いただいたが、引き続き検討いただきたいと思いますと考えている。

②学校運営部会

事務局 ・次に学校運営部会について説明をする。これについては、教育長の説明の中にあつた中高一貫教育推進協議会との情報を共有して学校の教育システムとか、プログラムについて具体的な協議を進めていきたいと考えている。また、令和8年度から令和9年度にかかる落成式とか、閉校式、開校式についても協議をお願いしたいと考えている。さらに、学校保健とか学校給食関係、各種印刷物など、こまごまとした作業があるが、このようなものについても、事務局案をベースにして、スムーズなスタートが切れまよう協議をいただきたいと思いますと考えている。なお中高一貫教育推進協議会の内容については、後ほどまとめて紹介をさせていただく。私からは以上になる。

③P T A部会

事務局 ・それでは引き続いて、P T A部会について説明をさせていただく。資料の6-1をご覧ください。先ほど教育長の方からも概要説明があつたが、基本的な考えは上の1番、2番になる。市内全域からやってくると、勝山高校周辺の交通状況、通学路の安全を考慮して考えている。2番目は保護者の皆様の負担をなくすということで、この二つの考えに基づいてスクールバスを設定させていただいた。次も基本的な考えだが、今ほどあつたように登校が1便、それから夕方2便になる。そして1.5kmを境にして徒歩

とバスにさせていただいている。停留所は今現在利用しているバス停を利用して、せっかくのスクールバスなので、一般の方、高校生も乗車できる。運賃は無料。どのような路線かという点、資料 6-2 をご覧いただきたい。大変小さくて見にくいですが、全路線を載せると、このように 12 の路線が各地からやってくることになっている。全路線が、福井勝山総合病院、ジオアリーナ、サンプラザ、そして勝山駅を通ることとしている。一応こちらの要望としては、土日、祝日、お盆とか年末年始を除いた期間運行したいと考えている。これはスクールバスなので、中学生の通学を優先させていただいて、乗車時間はできるだけ 30 分以内ということで、考えた路線がこれである。ただ、鹿谷線の 11 番の路線になるが、志田地区から路線についての要望書が出ている。この路線ではまっすぐに降りる濃い茶色の路線になっているが、志田区内に入っただけでないかという要望書が出ている。議会に対しても別途陳情書が出されていて、議会では継続審査という扱いになっている。事務局としては各地区を順にまわらせていただいて、この各ルートを説明することになっている。次は資料 6-3 をご覧いただきたい。12 路線のバスの発着時刻表になっている。例えば朝の始発バス停と書いてあるが、ここは猪野瀬方面は入っていない。しかし次の市街地循環線は 7 時 39 分と書いてある。つまり、始発は出るが、ここには中学生が乗らないということになる。中学生が乗るバス停としては、7 時 46 分から乗ることにこの路線ではなっている。一般の方の乗車も考えて、始発がもっと前になっているところや、同じになっているところがある。帰りは先ほどの説明のように、授業時間を勝山高校さんと時程を合わせさせていただいた。中学生で部活動がない生徒に関しては、ジオアリーナをこのように 16 時 40 分から 3 台ずつに分けて出ていく。さらに部活動が終わった後、17 時 50 分から 2 便目が出る。これも 3 台ずつ出るという形になる。次に資料 6-4 をご覧いただきたい。これは中学生が乗るバス停からジオアリーナまでの路線の状況になる。例えば一番上の平泉寺方面だと、大矢谷を出て、大矢谷で乗る生徒は対象 1 名がいる。ずっと来てジオアリーナまで 12.7km、所要時間 30 分で、23 名の対象生徒がいる。ここでは小型の 4WD28 名乗りのバスを用意しようと考えている。次になると中型の 2WD44 名乗りになる。少し大きくなる。それから北谷方面だと、コンピューター 4WD13 名乗りを使う。3 タイプの車両を用意して運行を考えている。中型 2WD (44 名乗り) が 5 台、小型 4WD (28 名乗り) が 5 台、コンピューター 4WD (13 名乗り) が 2 台を購入予定としている。この 12 台については今年度中に購入させていただきたいと考えている。運転業務については、市が直営で行うのが 3 台 (大・中・小) ある。残りの 9 台は業者に委託しようと考えており、これから発注をかける予定でいる。朝と夕方間の時間については、児童生徒の校外活動に利用することも考えている。次に資料の 6-5 をご覧いただきたい。これがジオ周辺の動線になっている。先ほどの話のようにここが非常に混み合う可能性がある。しかも前は国道 157 号線で左側には長山トンネルがある。そこで、現在のところ自転車通学は考えていない。原則、徒歩かバスでお願いしたいという考えでいる。バスは、このジオアリーナを反時計回りに回ってここに書いてあるように①、②、③

に3台停まる。茶色というか赤っぽいところだが、いろいろな事情で、もし送迎となった場合、送迎車がいる場合はこのように入っていて、送迎車の乗降所は細長いこの赤い部分で乗降していただきたい。そして、大野方面に行く方の矢印と福井方面へ行く方の矢印があるが、このように出て行っていただく。生徒はここで降りると、紫色の線に従って、横断指導線というのが一番上にあり、そこを歩いて行ってジオアリーナのふちに沿って行って、最後に地下横断歩道の出入り口ということになっている。いろんな車等も出入りしたり、大きなバスも12台来るということで、きちっとこの動線を決めさせていただいた。それで今年度は、このルートの最終検討、それから車両購入とか業務委託も行なって、いわゆる生徒がこのバスに乗る体験乗車、これについて協議をお願いしたいと思っている。さらにこういった市の公共交通体系全体を含めて、皆様への周知を図っていききたい。それからここには書いてないが、別途新中学校のPTA組織がある。それから同窓会も3中学にあるが、これが締めくくられる。締めくくると新しいこととの両方を決めていかないといけないので、そういったことも別途協議していききたい。以上になる。

④施設整備部会

事務局 ・続いて施設整備部会の説明をさせていただく。施設整備部会については、先ほど教育長の説明にもあったが、中学校校舎については参考資料の再編準備便りのイメージ図を確認いただきたいと思う。現在の進捗状況を説明させていただく。資料7-1、13ページをご覧ください。中学校校舎は東西に長い鉄筋コンクリート造3階建ての校舎となっている。左上の写真①は長山公園の中腹から撮った全景になる。奥に見えるのがジオアリーナ、手前が勝山高校の仮設校舎、右側が第1体育館、左側が管理棟と特別教室棟が見える。ちょうど鉄筋コンクリート、杭工事を終えて躯体工事に入っている。茶色っぽく見えるのが手前の西側の玄関の方の型枠のイメージになる。写真②は1階の躯体工事の中間から国道側で、ちょうど校舎の真ん中ぐらいから奥のジオアリーナを見たところになる。1階の土間の方の鉄筋工事が終わって、今後コンクリートを打つ形になる。そして左下写真③は、コンクリートを打つと、ちょうど1階の柱型の鉄筋コンクリートが見えている状況になる。右側の写真④は1階の躯体工事と言ってちょうど奥に見えるのが第一体育館の壁面になる。場所でいうところは2階の多目的室になる。再編準備便りでいうと、2階の⑧というところの床の部分の鉄筋を踏み上げて、今コンクリートを流すような形で進捗している。随時西側の長山公園側から順番に追って行って、躯体を積み上げている状況が校舎の工事となる。次に14ページの地下横断歩道建設工事の施工状況をご覧ください。こちらの方は、ジオアリーナと校舎をつなぐ地下横断歩道の施工状況で、現在1期、2期、3期に分けたうちの3期の国道の工事を行なっている。左側の写真①は地下埋設物事前確認といって、国道の中には、各種上水道や、北電等の配管があるので、そういった確認になる。その右側が写真②として、仮の排水管の敷設工事として、地下横断歩道が入る部分は水道管を切り回している状況である。そして左下、写真

③が仮設工といって、ちょうど奥がジオアリーナで、地下横断歩道が上ってくる場所の矢板といって、今から掘削するための鉄の板を埋め込んだ状況で、その右側はそれを元に掘削をしている状況が写真④という形である。各工事だが、この学校が勝山の子ども達にとってここで学んでよかつたと思える場所になるように現在工事を進めている。令和9年の開校を目指して工事を進めている状況である。

事務局 ・続いて給食調理業務委託について説明する。資料7-2をご覧ください。自校式給食調理業務委託について説明する。自校式給食による温かい給食やアレルギー対応などきめ細やかな配慮を継続しながら、中学校給食の調理業務等を民間事業者の優れた調理技術や衛生管理能力等のノウハウを活用し、より安心安全な給食を提供することを目的に実施する。令和9年5月の食数の見込みは500食ということで、大体調理員6人は配置が必要ではないかと思込んでいる。スケジュールについては図のように考えている。これで令和9年度4月からの給食に間に合わせたいと考えている。

事務局 ・それでは資料の7-3をご覧ください。備品精査についてになる。備品はその表にあるように三つの建物がある。一つは新中学校校舎、二つ目に勝山高校さんにある特別教室棟、そして三つ目は給食室棟になる。備品の種類は新調備品、つまり新しく買って収める備品と、移設備品、つまり今中学校にあるまだ使えるというものを動かす備品がある。経費としては新しく買う備品費と、消耗品費、そして運搬費が必要になってくる。その他にもいろいろな備品がある。それを勝山高校さん、あるいは県とも相談しながら進めていきたい。スケジュールとしては、①、②はもう済んでいるが、③夏休みに図書の本の移動がある。④冬休みを中心に特別教室棟に移動する作業がある。これは特別教室棟の方が一足先に完成する予定で3学期少しでも勝山高校の生徒さんが授業できるようにということで、特別教室棟については備品を移設できればと考えている。最後⑤は新中学校へ備品移動をする。特に3月の日程が過密になってくるので、皆様といろいろ相談しながら調整をして進めていきたいと思っている。なお、余剰備品があるが、その残った精査は9年度に入ってからになるのではないかと考えている。以上になる。

委員長 ・これまで非常に情報過多というか、一気に話を聞いて消化不良を起こされているところもあるかと思うが、説明いただいた内容は、これまである程度各部会で決められてきた内容と、今年実施したい内容を併せて説明いただいた。これから各部会に分かれていろいろ協議に入っていただくわけだが、それに先立って、本日、全ての部会の状況について報告をさせていただいているので、これについて質問とか、よくわからないからもう一度説明してもらいたいとかいうことがあったら、その辺の疑問を解消して帰っていただければと思うので、挙手いただいて質問いただければと思うがいかがか。本来なら第1回目なので皆様方に一言二言、話していただければいいのだが、限られた時間のことがあって、なかなかそれも難しいかと思

うので、全般通して質問があったらお聞きしたい。

- 委員 1 ・本日、丁寧に説明いただいております。一点、質問だが、この各部会で一応出した結論というのは、最終的にどこかに諮って何らかの意思決定がされるというような状況なのか、この辺り部会と準備委員会との関係を教えていただきたい。
- 事務局 ・四つの専門部会があるので、各部会ごとに協議をしていただく。その案をこの全体の今皆さんがおられるこの再編準備委員会という場で報告していただいて、いいでしょうとか、ここはもう少し直してほしいとか、あるいはもう一度検討だとか、ここで決定していただく。これを議会なりに報告して、議会の皆さんにも納得いただけてという形で進めさせていただいている。
- 委員長 ・他に何か。
- 委員 2 ・私は昨年度、こちらの準備委員会に参加させていただいている。もうラスト1年ということで質問だが、新校舎の見学会とか、時期的にどれぐらいの感じなのか、初めての方もおられるので、細かいことは今後の部会によって決めていかれると思うが、時期的なものを教えていただければのらと思う。
- 事務局 ・先ほど説明させていただいたが校舎は順次工程を重ねている状況である。どの段階で皆様方にお見せできるかというのは、現場の打ち合わせ会議があって、その中でも提案をさせていただいた。現場サイドとしても工程的なものあるし、どの段階で皆様にお見せできるかということも調整して、また改めて報告できる際にはさせていただく形になると思う。工事の途中でいいのか、完成の間際でいいのかということも含めて、改めてまた調整はさせていただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。
- 委員 3 ・スクールバスの件で、PTA部会の時にも意見させていただいたが、実際生徒さんは3月になると、本当に時期が迫っているということで、時間もタイトで予定を入れていくのが難しいと思うが、シミュレーションみたいなことがあるといいかなというのは伝えさせているので、その点だけ検討をしていただければと思っている。
- 事務局 ・学校現場からもそういう声をいただいているし、今の生徒はバスにあまり乗ったことがないので、やはりどこかの段階でそういった体験乗車はしないといけないと考えている。
- 委員長 ・実際、バスの購入のタイミングとかもあるので、その辺は時期を見て実施していただければと思う。
- 委員 4 ・建設中の校舎について質問させてほしい。中東情勢の影響で結構建築業界がいろんな影響を受けているとか、資材が高くなるとか、工期が延長したりだとか、そういった話をしているが、新しく今建てている校舎の当初の見積もりよりも費用がものすごく上がるのではないかとか、そもそも4月

に間に合うのかということが気になる。どのような状況なのか。

事務局 ・実は中東情勢の件は、この現場には全く影響ないかということ、実はそうではなくて、先ほど言ったが、現場の打ち合わせの中で、そういった課題は既に話させていただいている。ただ受注業者さんは工期完成に向けて一生懸命努力しているのと、資材の価格のことについても、今後の課題であるということはしっかり把握していて、その辺は発注者、受注者と協議しながら進めていくので、現段階では特に何かあるというわけではないが、そういった懸念事項はあるということはお互い共通の認識で工事を進めている状況である。

委員長 ・確かに今言われる通り、誰もが心配している部分はあるかと思う。このような状況の中で変化があったら、逐次委員の皆様にご伝えていただくようお願いしたい。他にはどうか。

委員 5 ・今回この中学校再編準備委員会とは関係がないかもしれないが、この中学校再編に伴って各中学校はこれから使われなくなると思うが、今後の方向性というのがあれば教えていただきたい。またここに書かれている中で移設備品というのがあって、各中学校から新中学校に持っていくというところが書かれているが、持っていくにしても3中学校の全部の備品はいらないのではないのか。音楽室のものとか、そういったものは処分されるのか。そういったところも含めて個人的には例えば高価なものを処分するぐらいだったら、勝山で有効活用できるのかとか、誰か欲しい人がいたらもらえるのかとか聞きたい。

事務局 ・備品のことについて答えさせていただく。単純に言うと同じものが3個あったりするが、3個欲しいのかは分からない。しかし人数は増えるので、そこは先生方で基準数というのもあって精査していただいている。言われるように当然残るものも出てくる。今の考えとしては、まずは他市町でもやられていると思うが、公共施設に対して譲る。例えば小学校でこれが古くなったので交換してくれないかとか。まずそういったことを行なって最後の方になると市民の皆様にご提供というか、そういう場があるかもしれない。今まだ計画はきちんと決まっていないが、そんなことを考えている。

事務局 ・中学校の跡地利用について回答させていただく。今のところ内部の検討委員会で協議をしているところで、お示しできるような状態ではないが、いろいろと検討して、皆様や議会などに示して、意見をいただきながらその方向性についてしっかりと決めていきたいと考えている。

委員長 ・備品の方の取り扱いについては今のようなことでよろしいか。跡地については当然簡単に決定されるものではないだろうし、災害時の待機場所とか、いろいろな考え方があるかと思うが、これについては、市民の皆さんが気にされている点であるし、どうなるのかなと非常に気になる。ある程度わかり次第、市民の皆さんにも発表していただければと思うので、よろしくようお願いしたい。他にはどうか。今のようなことでもいいし、この辺の

ことがよく分からないということでもあればと思う。

委員 6 ・先ほど言った現場見学の希望だけ伝えてよろしいか。あくまで希望で工期も大事なので大変だと思うが、躯体ができあがったタイミング、もしくは内装工事のタイミング。多分内装工事に入ると、ほぼ変更も難しいと思うので、本当は躯体ができあがったタイミングで教職員の方には優先してみたい方が いいのではないかと 思っている。施設整備部会の方でも一度見た方がいかなと 思っている。ここからは本当に難しいことだが、本当にできれば中学生、高校生にどこかルートを作って見せてあげると、もう校舎を見る機会は多分ないと思う。勝山で小学校の再編があるかもしれないが、何か機会としては作ってあげた方が勝山市の宣言にもなるし、体験としてもいい教材になるのではないかと 思った。本当にこれは大変だと思う。

事務局 ・いただいた意見を踏まえて、受注者、施工業者さんとも協議していくので、よろしくお願ひしたい。

委員長 ・部会の方でも話してもらって進めてほしい。他に何か。最後の方で意見があれば聞きたいと思う。時間の方も進んできているので、一旦質問はここで終わらせていただいて、中高一貫教育推進協議会の説明をお願いしたい。

《その他》

(勝山市中高一貫教育推進協議会について)

事務局 ・私の方から中高一貫教育推進協議会について、説明をさせていただく。資料は 17 ページ資料 8 をご覧いただきたい。まずこの内容に入る前に中高一貫推進協議会とはということで、冒頭教育長の方からも説明をさせていただいたが、この準備委員会の方は、どちらかという と、学校開校に当たって骨格的な準備をしているというものに対して、推進協議会の方はまさに学校運営そのものについて協議を学校の先生方で行なっていくという会議である。推進協議会が最上位の決定機関ということで位置づけていて、その下部組織として中高連携推進委員会、それからこの部会と同じように六つの部会において、中学校の先生と高校の先生が直接協議をいただくという組織である。一覧表にしたものについては、そういったものを順次配置していくというもので、ここではどういった内容を協議していくのかということについて説明をさせていただく。特に来年開校ということになって、先生方の方からいよいよ準備を本格的にしないと いけないという認識が非常に高まっている。まず教育課程部会、教育課程というのは一言で言う と、どういう教育を行なっていくか計画を立てる部会であるという認識で理解いただければと思う。特に今年度中に、時間割とかクラス編成をする必要がある。これまでだと 新入生のクラス編成をするだけでよかったが、今回の場合は全ての学年がクラス編成をするということになるので、どのような形でクラス編成をしていったらいいのかということ を協議することになる。特に今日もその出だしの会議をしているが、近年特別支

援に係るお子様の数が非常に多いということで、手厚い状況でクラス編成をしようと思うと、なかなか作業に時間がかかるということで、1年かけてじっくり取り組んでいくということで準備をしていきたいと考えている。また時間割の編成についても、高校と施設を共有するので、単独の中学校の場合とは少し施設の共有ということも加味する必要があり、これについても時間をかけて、十分な協議をしていきたいと考えている。このほか令和9年に入った時にそこに書いた各種の行事をどのように配置していくのかというあたりについても、この部会で協議を進めていくということである。言うのが遅れたが、この協議会で協議された内容については、学校運営部会の方でも同様の内容で、学校の先生方でこのように決めているがいかがかということで審議いただく、意見をいただくということになるので、特に学校運営部会の委員の皆様方には、協力していただけるとありがたいと考えている。次に進路支援部会だが、勝山高校との連携型の中高一貫教育を行うということで中学校卒業後の進路選択については、自由であるとはいうもののでできるだけ多くのお子さんに勝山高校に進学していただきたいという思いもある。その連携、接続について、どのような試験を行なっていくのか、どのような形で連携生徒を募集していくのか、その連携生徒に対する受験に替わるプログラムとしてどのようなものを用意したらいいのかという辺りについて、高校の先生方とともに中学校の先生方と協議を進めていくということが進路支援部会の大きな役割になるかと考えている。合わせて進学いかんにかかわらず、非常に不透明な世の中の中で、子ども達が真に目標を持って学んで力をつけていくということを考えると、キャリア教育、ライフデザイン教育というものを重視したいと考えていて、子ども達が実際に仕事についておられる地域の方々、あるいは大学の先生とか、高校の先生とか、そういった多くの方々からどのように生きていくのがいいのかということを理解する機会ということも充実させていきたいと考えていて、このライフデザインタイムについてどのようにプログラムを作っていくのかということも、この部会において協議をしていただいているところである。次に生徒支援部会だが、校則的なものとか、生徒会に関わるものとか、あるいは登下校に関わるもの、部活動に関わるものということで、生徒主体の活動を進めようと考えているわけだが、具体的にどのような約束の中で、子ども達の学校生活を担保していくのかというあたりを協議いただくということで、校則等については大筋が見えているので、今年度はそれを具体的に実施していくというのがこの生徒支援部会の協議内容になるかと思う。数学英語については、これも冒頭教育長の方から説明した通り、少人数に分けてより丁寧な指導を行なっていく。さらにここに高校の先生がサポート授業という形でサポートしていただく。この入り方をどのような形で入っていただくのが最も効果のある教育につながるのかというあたりについても、該当の先生方と協議を進めていくということである。最後に探究部会だが、6年間を見通した探究ストーリーということで、勝山高校の方も探究特進科で、探究に非常に力を入れておられるが、高校に中学校の探究学習がどのように繋がっていくのかというあたりを、系統的につながるように協議を進めていきたい

ということを考えている。この他に、全ての内容の準備をしなくてはいけないということで、英語数学だけでなく全ての教科、さらには生徒指導とか図書館教育とか道徳教育とか全ての内容について、次年度3月にはスタートができるという準備をしなればいけないので、市内の先生方で作っている教育研究会というのがあるが、その部会の方でも何を準備しないといけないのか、どういった作業を済ませておかないといけないのかということ、綿密に協議いただくと、こういうことが今年度の課題となっている。このようなことで、教育研究会との連携をしながら、万全の体制を整えていくという準備をしているというのが中高一貫教育推進協議会についての内容である。

委員長 ・それでは先ほどの各部会からの報告ならびに今の中高一貫教育推進協議会の状況報告について全般的に質問等あればうかがいたいかがか。

委員1 ・この活動計画の中に令和9年度1月21日に令和9年度入学生交流会と書かれているがどういった内容か。

事務局 ・この交流会説明会については、次年度入学される小学校6年生の皆さんに一同に集まっていただいて、簡単なゲームをして交流を深めていただく。交流というよりも大体150人ぐらいが集まると、こんな規模になるんだということを実感していただくことを主な目的として実施をする。これまで11月末にやってきたが、今回の場合については、直接新しい中学校に入るお子さんという位置づけになるので、少し時期を遅らせて、中学校に必要な事務的な手続きとか、具体的な内容について、単なる学校説明だけではなくてということで企画を考えたいと思っている。

委員2 ・小学校6年生のみ対象ということでよろしいか。

事務局 ・この1月の説明会については小学校6年生を対象ということだが、おそらく2月の終わりぐらいには、開校時に2、3年生になるお子さんに対しても一定の説明をしないと、突然学校にやってくるということではできないと思いますので、一番下に書いてあるが、2月の下旬には中学校1、2年生対象説明会も必要かなと考えている。

委員3 ・聞きたかったことは一堂に会して各中学校の生徒であったり、小学生の児童が集まって交流できる時間があるのかなというのが知りたかった。今の話だと2月の下旬の説明会だけは別に触れ合う交流会というより、中学校に対しての説明があるという認識でいいか。

事務局 ・今のところ具体的にどういう内容でこの会議をもつところまで、まだ詰めてないので、はっきりしたことは言えないが、基本的には中学校に不安なく来れるようにすることを第一義の目標にしたいと思っている。それから、この中学生の交流に関しては、ここに書いてないが、中学校1年生が六呂師に行って一緒に3中学校の中学生が泊まるとか、そのような交流も企画をしているので、ここだけではなしに様々なところで、中学生が交流できるような場を持っていきたいと考えている。

委員長	・昨年、ジオアリーナかどこかで交流会を開催された。その説明をしていただきたい。
事務局	・これについては質問があった通り、新中学校1年生という子だけを対象に集まってもらっているが、やっている内容としては、小さなグループを作って、動物狩りみたいな何人集まれとか言って集まったグループで自己紹介をしたり、好きなことを言ったりということで、本当に簡単な交流だが何かのきっかけになればということである。中学校1年生の六呂師に宿泊する活動というのは、違う学校の子達と一緒にオリエンテーリングのようなことをやって、結構楽しかったとか、新しい友達ができたとかという感想を聞いているので、そういった交流も効果的なのかなと感じている。
委員長	・各中学校でも共同でいろんなイベントをしているのではなかったか。
委員4	・今の1年生は3中学校に分かれている。来年は一つになるということで、1年生の段階で3中学校そろって六呂師でキャンプをする。一緒にみんなでご飯を作ったり先ほどあったオリエンテーリングもしたりという交流活動を組んでいる。機会があるごとに三つが一緒になって活動することをこれまでより増やしているという状況である。
委員長	・すでにそういうことを実施されているということか。
委員5	・後は勝山高校さんの探究の発表会がある。市内の3中学校の3年生が全員、そこに参加して、3中学校のグループは混ぜることになるが、そこで勝山高校さんの探究の発表を見させてもらっている。そこで他の学校の3年生と交流も設けられているかと思う。それから2年生については14歳の挑戦という職場体験学習がある。それは3中学校まとまってやっているのので、職場職場で他の学校の子と交流がある。
委員長	・昨年度からも交流活動が頻繁に行われているようなので、安心して見ていただければと思う。また意見があったらお願いしたい。他にどうか。それでは、関係団体の方々も学校の先生方もほとんど昨年から引き続いて委員をされているので、今回新しく新任された委員の皆様方に対してでもいいし、全般を通して何か一言、二言コメントをいただければと思う。
委員6	・去年から私も参加させていただいたが、結構周到な用意で進んでいるかなという感想を受けている。今回新しく、PTAの会長さん副会長さんなり新しく変わった方がおられるが、各部会に分かれていろいろな話ができると思うので、そこで精査していただければいいかなと思っている。
委員7	・私は4年目になるかと思う。今年は本当に最終年ということで、いろいろ絶対決めないといけないことばかりだと思うので、部会の方できっちりと話し合って納得した形で決めていただければと思う。よろしく願いしたい。
委員8	・いよいよ来年度からということで今校舎をがらがらがんがんに建てている様子を日々体感でも感じ、そして子ども達も一緒に出来あがるのを楽しみに

している。いよいよ今度は中身の精査になるので、中高の教育をどうするかということをしつかりやっていきたいと思う。無事にきちっと建物が建って、見学会ができると本当にいいなと思っていて、そういうところがワクワク感のまま進めたらいいなと思うので、引き続きいろいろな方の意見をいただきながらより良いものにしていきたいと思う。

委員 9 ・もう最後の年ってということで、子ども達の言葉の中には、最後だからしつかり頑張ろうという話がまずいろんなところで出てきている。子ども達もこれで最後にして、次に新しいところに移るとい希望というか、しつかりやらないといけないという言葉が出てきている。私たちも先ほどから生徒主体のという言葉もあったので、子ども達に決めさせられるところはしつかり子ども達に話し合わせて、そういうところで、自分たちの学校だということ、新しい中学校に臨めるように、なかなか忙しい1年になると思うので、子ども達にも計画を示しながら、1年頑張りたいと思う。

委員 10 ・先日、生徒と話をしていたら、新しい校舎になるので嬉しいと言っていた。今の中学校の校舎も歴史ある昔の色がそのまま出る校舎だが、子どもらはきっと新しいのがいい嬉しいなと思っているだろうと思う。ぜひ、大人の皆さんの力を合わせて、「よかった、こんないい校舎で勉強できて。」と言ってあげられるようにしたいと思っている。

委員長 ・皆さん、いろいろ意見をいただきありがとうございました。時間の方もおしてきたので、最後に何かこの会議を見てコメントがあったら是非お願いしたい。

委員 11 ・聞いていて、すごく綿密に組まれていてすごいなというのは改めて思った。細かいところでどうするのかなという部分があったので、今後部会で練って話をしたいと思うのでどうかよろしくお願いしたい。

委員長 ・それでは他に何か質問等なければ、本日の準備委員会の方はこれで終了したいと思う。いろいろと意見をいただいた内容についても今後各部会の方でさらに議論を進めていただくとともに、冒頭に教育長からの話があったように今年是最終年ということで積み残しはできない。年度内に全てを結論出していく必要がある。そういった意味では、非常に深い議論を必要とする場合も出てくるかと思うが、どうか皆様方のご協力をいただいて、少しでもより良い新勝山中学校になるように、力を合わせて頑張っていきたいと思うので、どうぞよろしくお願いしたい。それでは本日の準備委員会を終了とさせていただきます。最後、事務局の方でよろしく願います。

事務局 ・それでは長時間にわたり、協議いただき誠にありがとうございました。以上で、第1回勝山市立中学校再編準備委員会を終了する。今後は各専門部会を開催していく。関係の委員の皆様には後日案内を送付させていただくので、よろしく願いたい。本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。

- 資料1. 令和8年度勝山市立中学校再編準備委員会（専門部会）委員名簿
- 資料2. 勝山市立中学校再編準備委員会条例
- 資料3. 勝山市立中学校再編準備委員会開催要綱
- 資料4. 令和8年度準備委員会（専門部会）検討・協議事項（案）
- 資料5-1. 校章デザインについて
- 資料5-2. 校歌について
- 資料6-1. スクールバスについて
- 資料6-2. スクールバス路線図
- 資料6-3. スクールバス発着時刻表
- 資料6-4. スクールバスルートと乗車人数見込
- 資料6-5. スクールバス停車位置イメージ+徒歩+送迎車の動線
- 資料7-1. 新中学校校舎等建設工事・地下横断歩道建設工事について
- 資料7-2. 給食調理業務委託について
- 資料7-3. 備品精査について
- 資料8. 勝山市中高一貫教育推進協議会令和8年度活動計画